

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00787

研究課題名（和文）中国ムスリムの超国家・超民族的ネットワークの構築と多文化共生圏の創出に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Construction of Trans-national, Trans-ethnic Network of Chinese Muslims and an Emergence of Multicultural Sphere in China, Hong Kong and Taiwan

研究代表者

木村 自（KIMURA, MIZUKA）

立教大学・社会学部・准教授

研究者番号：10390717

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究をとおりて、主に以下の3つの点が明らかになった。第1に、中華圏（中国、台湾、香港）に居住するムスリムや、中華圏外に居住する中国系ムスリム移民たちは、イスラームや宗教上の実践を共通の価値観として、国籍の異なるムスリムや非ムスリムと日常生活実践をとおりしたネットワークを築いており、日常の多文化主義と言いつるような多文化共生圏を構築していること。第2に、そうしたネットワークが歴史上においても、今日においても、国境を越えて拡大していること。第3に、そうしたネットワークの拡大を一つの要因として、マジョリティ社会内部の主流言説空間において、ムスリムたちが不当に排除される現象が生じていることである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は以下の意義を有する。学術的意義としては、グローバル化が進展し、国内外との外交上・商業上の結びつきが拡大する中華圏において、これまで十分な蓄積がなかった中国ムスリムをめぐる民族誌的データを提示する点である。また、こうした民族誌的データに基づき、ムスリムを主体とした多文化共生の在地の理論を明らかにしたという点でも学術的意義を有する。社会的意義としては、人々が日常生活実践をとおりていかに多文化の共生を可能にする論理を生み出しているのかを提示することで、従来の多文化主義や多文化共生概念に対して、下からの共生の仕組みを検討する可能性を提示できる点にある。

研究成果の概要（英文）：This research project clarified the following three points. Firstly, both Muslims living in the Chinese region (China, Taiwan, Hong Kong) and Chinese Muslim immigrants living outside the Chinese region have built up networks with Muslims from different nationalities and non-Muslims through their everyday interaction by sharing Islamic beliefs or religious practices as common values. Namely they construct multicultural spheres as everyday multiculturalism. Secondly, such networks have expanded across national borders, both historically and nowadays. Third, the expansion of such networks causes the phenomenon that Muslims are unfairly excluded in the mainstream discourse within the majority society.

研究分野：文化・社会人類学

キーワード：中国ムスリム 移民 多文化共生圏 台湾 ウイグル族

1. 研究開始当初の背景

改革開放政策が導入されて 40 年が経過しつつある現在、中国では漢族のみならず、「少数民族」も国内・国外への移住や移動を繰り返している。なかでも、大都市における移住・定着、漢族や外国人との接触、移住先での起業などが、大きく注目されている。例えば、浙江省義烏市は近年、メディア報道で頻りに紹介される著名な国際貿易都市である。義烏市には、従来ムスリムが居住していなかったが、近年中国ムスリム(主に回族)の活躍が目覚ましく、モスクが建設され、数多くのハラール料理店が経営されている。また、外国籍のムスリムが経営する店舗もあり、義烏市は様々な民族が行き交う国際的な貿易拠点として発展している。このように、中国東南の沿海部、香港、台湾などでは、中国ムスリムが主にビジネスや宗教活動を契機として外国人や漢族と積極的に接触・交渉する現象が散見されている。また、中国における政治環境の悪化にともない、国外に移住・亡命するウイグル族なども少なくない。こうした現象を背景に、中華世界に生きる中国ムスリムたちをめぐり、トランスナショナル(超国家的)、トランスエスニック(超民族的)、トランスレリジヤス(超宗教的)な現象が生じている。

2. 研究の目的

本研究は、中華世界において「周縁化」されてきたムスリム諸民族が、移住や商行為などをおして形成してきた超国家的・超民族的・超宗教的なネットワーク形成の特徴を解明するとともに、グローカリゼーションが加速化する中国沿海部・香港・台湾などの都市部における多文化共生の意味を解明することを目的とする。とりわけ、ムスリム諸民族による日用品・食料品の製造・卸売・流通、外国人ムスリムの商取引・移住・定住化、中国ムスリムの通訳・翻訳業、ハラール食品の生産・販売、ハラール料理店の経営などに注目し、中華圏におけるムスリムたちがトランスナショナル(超国家的)、トランスエスニック(超民族的)、トランスレリジヤス(超宗教的)なネットワークの形成をとおして産出する多文化共生の在地のロジックを明らかにする。こうした目的に加えて、最終年度に国際研究集会を開催し、当該分野の研究をめぐり、国内外の研究者と国際的な学術ネットワークを形成することも目的とする。

3. 研究の方法

研究計画・方法は、文献調査、フィールドワーク(主に参与観察、インタビュー調査)、国際研究集会の開催による。

文献調査では、日本・中国の大学図書館や研究所資料室などで中国ムスリムの商業活動に関連する既存の文献資料(主に日本語、中国語、英語)を収集・整理し、問題点を発見する。

フィールドワークは、毎年度、夏季休業・冬季休業中、調査地の中国浙江省義烏市、広東省広州市、香港、台湾台北などで中国ムスリムおよびその関係者に対してインタビュー調査を実施し、一次資料を収集・整理する。

最終年度に海外研究者を招聘して国際研究集会を開催し、本研究分野における国際ネットワークを構築する。

4. 研究成果

研究分担者による海外調査、計 6 回実施した国内研究集会、および 2021 年 11 月にオンラインで実施した国際研究集会により、主に以下の 3 つの点が明らかになった。

第 1 に、中華圏(中国、台湾、香港)に居住するムスリムや、中華圏外に居住する中国系ムスリム移民たちは、イスラームの信仰や宗教上の実践を共通の価値観として、国籍の異なるムスリムや非ムスリムと日常生活実践をとおしたネットワークを築いており、日常の多文化主義と云うような多文化共生圏を構築していることである。本研究においては、とくにムスリムと非ムスリムとの共生関係に着目して新たな知見を提示したことが、従来のムスリム・コミュニティ研究とは大きく異なる点である。台湾においては、ハラール食品やムスリム・フレンドリーな宗教・文化的環境が、ムスリムと非ムスリムとの協働によって構築されていることが見出された(砂井の研究成果)。また、同様に台湾におけるモスクの文化遺産化という局面においては、モスクを運営するムスリムたちと、非ムスリムの文化活動家やメディア関係者とが協力して価値観を創造し、広める動きが見られた(木村の研究成果)。さらに、中国においても、義烏や広州の商品市場において、中国籍、外国籍を問わず、ムスリムたちが宗教性を軸にしないネットワークを構築し、ビジネス関係を構築していることが確認された(奈良および高橋の研究成果)。

第 2 に、そうしたネットワークが歴史上においても、今日においても、国境を越えて拡大していることが指摘できる。歴史的視点においては、1920 年代から 30 年代にかけて、中国のムスリム(回族)知識人たちが、マッカ巡礼などをとおして、諸外国(とくにムスリムがマジョリティ

である地域)のムスリムたちとネットワークを構築し、独自のムスリム世界(Muslim world)を認識するに至っていたことが明らかになった(包[海外研究協力者]による研究成果)。また今日的な側面からは、中東諸国との政治的・経済的関係の伸長により、イスラームの宗教性を基軸とした日常の共生が行われていることが示された。本研究プロジェクトでは、とくにイエメンと中国との間における留学生の動きに着目した研究成果を上げている(Ho[海外研究協力者]による研究成果)。

第3に、そうしたネットワークの拡大を一つの要因として、マジョリティ社会内部の主流言説空間において、不当に排除される現象が生じていることも明らかになった。中国におけるイスラモフォビア言説の流布は、そうした傾向の一つである。澤井による研究成果によると、イスラーム的な象徴とされる装飾や文字などが、「行き過ぎた」イスラーム化として言説化されて他者化され、そうした象徴の排除やムスリム嫌悪などが生じている。また、ウイグル族においても、ムスリムの宗教実践が批判の対象となり、国外への移住や脱出を余儀なくされる状況が続いている。そうした脱出先の主な地域がトルコであるが、トルコにおいては、難民支援などを行うNPOが、宗教性を基軸として活動しており、移住ウイグル族のサポートを行っている(中屋の研究成果)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 澤井充生 | 4. 巻 515-2 |
| 2. 論文標題 イスラモフォビアと『宗教中国化』の親和性 中国イスラーム界のディストピア化 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 113 - 135 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 澤井充生 | 4. 巻 83(3) |
| 2. 論文標題 書評 楊海英『最後の馬賊 「帝国」の將軍・李守信』 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 文化人類学 | 6. 最初と最後の頁 498 - 501 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 砂井紫里 | 4. 巻 83(4): |
| 2. 論文標題 台湾ムスリムの食文化をめぐる交渉と創造: 清真、ハラール、ムスリム・フレンドリー | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 文化人類学 | 6. 最初と最後の頁 593 - 612 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 高橋健太郎 | 4. 巻 31 |
| 2. 論文標題 中国広州市におけるムスリムの増加・多様化と地域への影響 2000年代を中心に | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 地域学研究 | 6. 最初と最後の頁 1 - 18 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 NARA, Masashi | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 A Change in the Ethnicity/Religiosity of the Hui People and Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Proceedings: International Symposium "Ethnicities in China and their Interaction with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE" | 6. 最初と最後の頁 22 - 34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 奈良雅史 | 4. 巻 92 |
| 2. 論文標題 書評 櫻井義秀編『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 現代中国 | 6. 最初と最後の頁 144 - 148 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 奈良雅史 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 書評 Matthew S. Erie. China and Islam: The prophet, the Party, and Law | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 イスラーム世界研究 | 6. 最初と最後の頁 266 - 269 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 澤井充生 | 4. 巻 518-2 |
| 2. 論文標題 屠師はウンマの民にあらず：清真寺から消えた下刀アホンの軌跡 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 123-144 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 SAWAI Mitsuo | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Islamophobia Spreading in the People's Republic of China: Hate Speech, Anti-Muslim Sentiment, and the Party-State. | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices | 6. 最初と最後の頁 21-38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 NARA Masashi | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Yiwu as a Multicultural Sphere: Coexistence of Transnational Muslims in Contemporary China | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices | 6. 最初と最後の頁 7-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 KIMURA Mizuka | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Negotiating Muslim Multicultural Spheres in Taiwan: From Muslims of Chinese Nation to the Symbols of Multiculturalism | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices | 6. 最初と最後の頁 73-83 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 NAKAYA Masako | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Uyghur Diaspora in Turkey: Their Faith and Ethnicity | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices | 6. 最初と最後の頁 95-102 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高橋健太郎 | 4. 巻 64(4) |
| 2. 論文標題 広東省のムスリムから改革開放を考える | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 地理 | 6. 最初と最後の頁 57-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 木村自 |
| 2. 発表標題 華僑ムスリムを「真面目」に生きるということ 雲南ムスリム移民たちと「宗教」実践 |
| 3. 学会等名 東アジア人類学研究会第五回研究大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 澤井充生 |
| 2. 発表標題 The Survival of a Chinese Muslim Traitor: Colonial Experience of a Muslim Leader in Inner Mongolia |
| 3. 学会等名 The International Conference "Japan-China War and Colonial Experiences of Chinese Muslims: Comparative Analysis of the Islam Campaigns between the Chinese Nationalist Party and the Japanese Army" |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 澤井充生 |
| 2. 発表標題 日本軍と接触した“回奸”のライフ・ヒストリー 内モンゴルに暮らした回民の植民地経験 |
| 3. 学会等名 国際会議「日本と東アジア 現代史研究の新史料・新手法・新成果」 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sai, Yukari |
| 2. 発表標題 Influence of Malaysian Concepts of Modern Halal upon Asian Countries: The Cases of Japan and Taiwan |
| 3. 学会等名 Rethinking Halal: Genealogy, Current trends, and New Interpretations (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 高橋健太郎 |
| 2. 発表標題 中国深セン市のムスリム関連施設の分布と特徴 |
| 3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 高橋健太郎 |
| 2. 発表標題 広東省のムスリムから中国の改革開放40年を考える |
| 3. 学会等名 日本地理学会2018年秋季学術大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 インターネット・コミュニティとイスラーム復興：中国雲南省回族社会の事例から |
| 3. 学会等名 第4回北海道宗教研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 敬虔さの経済：回族社会の変化とイスラーム復興 |
| 3. 学会等名 東アジア人類学研究会第五回研究大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 「公益」の生成 中国雲南省昆明市回族社会における公益活動の事例から |
| 3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 砂井紫里 |
| 2. 発表標題 清真の精神は誠信 台湾におけるハラール認証制度の展開とムスリムの食選択 |
| 3. 学会等名 文化人類学会第53回研究大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 SAI Yukari |
| 2. 発表標題 Sharing qingzhen/halal values in China: Food, industry, and policy |
| 3. 学会等名 EHESS seminar “L'islam et le nouvel esprit du capitalisme” (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 「異教徒」を迎え入れる：中国雲南省紅河州沙甸区における民族観光 |
| 3. 学会等名 日本文化人類学会課題研究懇談会「歓待の人類学」第3回公開研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 NARA Masashi |
| 2. 発表標題 Changes in Textbooks of Islamic Education and Entanglements of Ethnicity and Religiosity |
| 3. 学会等名 East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 NARA Masashi |
| 2. 発表標題 Entanglement of Islamic Missionary Activities and Islamophobia through Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China |
| 3. 学会等名 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2019 Inter-Congress (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 オンライン・コミュニティによる観光実践：観光が生み出す社会的つながり |
| 3. 学会等名 北海道大学メディア・コミュニケーション研究院2019年度公開講座「観光とメディアの新たな出会い」 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 NARA Masashi |
| 2. 発表標題 Exchange of Piety: Islamic Revival and Social Change among Hui Muslims in Contemporary China |
| 3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the EASSSR 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 KIMURA Mizuka |
| 2. 発表標題 Handling Piety and Impiety: Memorial Service Ritual for Dead Ancestors and Moral Register among Chinese Muslim Migrants in Taiwan |
| 3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the EASSSR 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 SAWAI Mitsuo |
| 2. 発表標題 Islamophobia Spreading in the People's Republic of China: Hate Speech, Anti-Muslim Sentiment, and the Party-State |
| 3. 学会等名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practice (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 澤井充生 |
| 2. 発表標題 研究会の回顧と展望 |
| 3. 学会等名 中国ムスリム研究会20周年記念大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 澤井 充生 |
| 2. 発表標題 預言者の末裔となった聖者：中国西北の聖者廟をめぐる闘争の記録 |
| 3. 学会等名 中国ムスリム研究会第38回定例会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 歴史のなかの「宗教の中国化」とイスラームの展 |
| 3. 学会等名 「ムスリム・マイノリティ/ムスリム移民と宗教復興の諸相」第1回研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 コミュニティの再生産といくつかのモビリティ：台湾におけるムスリムの事例から |
| 3. 学会等名 民博共同研究「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のからみあい」研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 NARA Masashi |
| 2. 発表標題 Yiwu as a Multicultural Sphere: Coexistence of Transnational Muslims in Contemporary China |
| 3. 学会等名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 NARA Masashi |
| 2. 発表標題 Formation of Public Morality: Entanglement of the State Regulation of Religion and the Islamic Revival in Contemporary China |
| 3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS 12) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 民族観光の展開：中国雲南省回族社会の事例から |
| 3. 学会等名 民博共同研究「グローバル化時代における「観光化/脱-観光化」のダイナミズムに関する研究」研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 奈良雅史 |
| 2. 発表標題 排他がもたらす連帯：中国都市部におけるムスリム・コミュニティの変容 |
| 3. 学会等名 民博共同研究「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のからみあい」研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 KIMURA Mizuka |
| 2. 発表標題 Negotiating Muslim Multicultural Spheres in Taiwan: From Muslims of Chinese Nation to the Symbols of Multiculturalism |
| 3. 学会等名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 NAKAYA Masako |
| 2. 発表標題 Uyghur Diaspora in Turkey: Their Faith and Ethnicity |
| 3. 学会等名 Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計7件

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 澤井充生 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 明石書店 | 5. 総ページ数 528 |
| 3. 書名 現代中国における「イスラーム復興」の民族誌 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 山田敦士, 黒澤直道, 山田勅之, 清水享, 伊藤悟, 堀江未央, 立石謙次, 奈良雅史, 稲村務, 吉野晃, 川野明正, 西川和孝, 相原佳之, 飯島明子, 野本敬 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 215 |
| 3. 書名 アジア遊学 231 中国雲南の書承文化 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 西川 克之、岡本 亮輔、奈良 雅史 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 348 |
| 3. 書名 フィールドから読み解く観光文化学 | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 石森大知、丹羽典生 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 春風社 | 5. 総ページ数 448 |
| 3. 書名 宗教と開発の人類学 | |

| | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 川口 幸大、堀江 未央 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 京都大学学術出版会 | 5. 総ページ数 319 |
| 3. 書名 中国の国内移動 | |

| | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 奈良雅史、木村自ほか | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 上智大学イスラーム研究センタ | 5. 総ページ数 148 |
| 3. 書名 多元化する台湾のムスリム・コミュニティ | |

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 櫻井 義秀 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 明石書店 | 5. 総ページ数 344 |
| 3. 書名 中国・台湾・香港の現代宗教 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 奈良 雅史 (NARA MASASHI) (10737000) | 国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授 (64401) | |
| 研究分担者 | 澤井 充生 (SAWAI MITSUO) (20404957) | 東京都立大学・人文科学研究科・助教 (22604) | |
| 研究分担者 | 高橋 健太郎 (TAKAHASHI KENTAROU) (30339618) | 駒澤大学・文学部・教授 (32617) | |
| 研究分担者 | 中屋 昌子 (NAKAYA MASAKO) (30838850) | 同志社大学・研究開発推進機構・助手 (34310) | |
| 研究分担者 | 砂井 紫里 (SAI YUKARI) (90367152) | 千葉工業大学・社会システム科学部・准教授 (32503) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| 国際研究集会 | 開催年 |
|---|-------------|
| Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices | 2021年～2021年 |

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |